

施策の柱 7 気候変動への適応

取組⑬ 災害リスクへの対応



■取組の方向性

将来、地球温暖化がさらに進むと、大雨や酷暑などの異常気象の頻度、強度が一層増大し、深刻な自然災害が発生することが懸念されています。それらの影響を未然に防ぐとともに、被害を最小限に止めるため、緑や水辺などの自然（グリーンインフラ）の多面的機能を活用して防災・減災対策を推進します。

■具体的な取組

取組の主体	取組の内容
事業者	◎事業活動においては節水を心がけ、雨水タンク等の設置等を通じて水資源を有効に活用します。 ◎森林の保全活動に参加するなどして水源かん養に努めます。 ◎身近な緑を守るように努め、緑化に取り組みます。 ◎農地の多面的機能を保持するため、農業用施設の維持管理に努めます。 ◎河川等の水辺の維持管理に協力します。 ◎ハザードマップ等を活用して、災害発生時の避難場所・経路を日頃から確認しておきます。 ◎事業所ぐるみの防災体制づくりを進めます。 ◎事業継続計画の策定を進めるなど、災害リスクを想定した事業計画を立てます。

取組⑭ 健康リスクへの対応



■取組の方向性

気候変動によって影響が懸念されている感染症・熱中症などに対して、日頃から万全な備えに努め、健康リスクの軽減を図ります。

■具体的な取組

取組の主体	取組の内容
事業者	◎出張や現場での作業の際には天気予報を確認し、日傘や帽子を活用して熱中症を予防します。 ◎職場において、感染症や熱中症による健康被害に関する知識・情報を共有します。

取組⑮ 自然生態系リスクへの対応



■取組の方向性

気候変動に伴う生物多様性への影響を軽減するため、調査や情報収集・提供を推進し、自然環境の変化の把握に努めます。



■具体的な取組

取組の主体	取組の内容
事業者	◎森林の保全活動に参加するなどして水源かん養に努めます。 ◎身近な緑を守るように努め、緑化に取り組みます。

取組⑯ 農林水産業リスクへの対応



■取組の方向性

気候変動に伴う高温や豪雨等による、農水産物への影響の軽減を図ります。



■具体的な取組

取組の主体	取組の内容
事業者	◎気候変動による農作物や水産物への影響に関して情報を収集し、日頃から対応を考えます。 ◎農地の多面的機能を保持するため、農業用施設の維持管理に努めます。